

酒向 勤
さこう つとむ
議員



問 芳生苑で最期を迎える看取りは

答 新体制構築の必要な支援に努める

村岡 敏一
むらおか としいち
議員



問 公衆浴場保養センターの今後は

答 機能維持やあり方の検討を進めたい

町立病院が診療所になり和寒町で最期を迎えることが今はできない。看取りは医療、介護、福祉が一体にならないとできないと思うが、町立診療所と芳生苑が「ふくしのまちづくり基本構想」でどのように連携しているのか。

建設して以来、毎年度設備修理により維持運営されているが、近年の収支状況やこれからの方向性はどうか考えているのか。

○再質問
広域的な考えはあるのか。

奥山町長

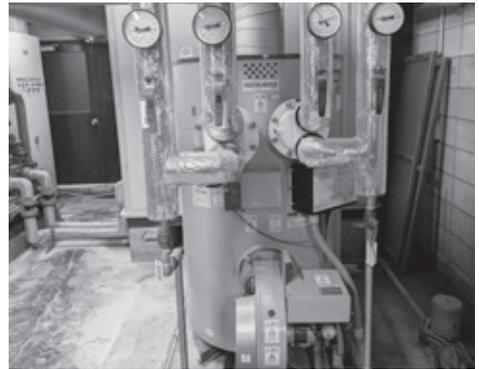
奥山町長

現在、芳生苑において終末期の方ではできる限り施設で過ごしていただき、施設側で対応が難しくなった時点で医療機関へ搬送し、医師の判断を仰ぐことにしているため、施設内での看取りのケースはない。

施設は44年経過し、これまで井戸水から水道へ、ボイラー設備の交換・トイレ・浴槽交換等、維持を図ってきている。第5次総合計画で「郷土資料館との複合施設」を構想検討委員会での協議していたが、当時5億円以上の費用が掛かるため取止めた。現在2戸の方がお風呂のない公営住宅に住んでいるが、保養センターの利用はないと聞いている。令和6年度の利用者数は1日平均12名、収支は約888万円のマイナスとなっており、利用者減少と多額の費用を考えると建替えは現実的でないと言っている。

**ふくしのまちづくり
5つのビジョン** (構想)

- ①最期まで暮らし続けることのできる特別養護老人ホームの体制構築
- ②あらゆる住民が安心して在宅生活を送ることができる在宅支援サービスの体制構築
- ③子どもたちが大切にされる機能の構築
- ④あらゆる住民が活躍できることを実現する「しごとづくり」機能の構築
- ⑤和寒町の特徴である農業・食文化を推進する機能の構築



▲大事に使えば、まだまだいけそうだが